

# 館報

Feb. 2002

No. 49

## The Yokohama National University Library Bulletin

### 目次

情報へのポイントとしての図書館 (森 辰則) .....	1
ーシリーズ 電子ジャーナル 第1回ー	
電子ジャーナルは、誰でもすぐに使えます .....	3
退官職員の随想	
一所懸命な20年間 (遠藤 肇) .....	5
思い出すままに… (松下 敬子) .....	5
教官寄贈図書リスト .....	7
平成12年度購入主要コレクション等 .....	9
図書館に関する会議・主要日誌・職員の動向 .....	9
中央図書館の新営・改修工事に伴い、サービスの変更 (予定) があります .....	10
平成14年度の情報リテラシー教育支援 (予定) について .....	10

## 情報へのポイントとしての図書館

森 辰 則

私が本学の学部学生だった頃、よく理工学系研究図書館のお世話になった。実験のレポート作成や授業の宿題、期末試験対策の勉強と頭を使うときには、とりあえず図書館に行ったものだ。また、大学院の入学試験の時には集まって過去の試験問題を解き、情報交換をしている友人たちもいた。資料＝書籍がそこにあることも図書館に出向く理由の一つであるが、何よりも、仲間が集まって情報交換をしつつ、時には共同で作業をできる場所と言うとやはり図書館なのである。仲間、書籍、参考資料など様々な情報ソースが周りに存在する空間で、それらをどの様に活用するか、というのを少しずつ学んでいった。

その中で体得した特に重要な概念は「情報へのポイント」であった。この言葉が一般的な用語であるか定かではないので、少し説明をしておこう。「ポイント (pointer)」とは「(ある物・事を) 指し示すもの」であり、計算機科学の世界で良く使われる概念である。「情報へのポイント」と言った場合は「特定の情報の在処に関する情報」となる。人間は忘却の動物であるから、どんな知識でも使っていないと錆びついていく。興味の無い物はなおさらである。しかし、往々にして、

その手の情報ほど後で必要になる。そんな場合でも「何処にいけば、あるいは、誰に聞けば、最新情報が手に入るか」という知識さえ持っていれば、対処可能だ。この知識が「情報へのポイント」である。おそらく、読者諸先輩にとっては当たり前のことだと思うが、当時(約20年前)の私にとっては重要な概念の認識であった。いずれにしても、図書館は関連書籍はもとより、友人からも情報を得ることができる、総合的な「情報へのポイント」であった。

ここ数年、図書館における「情報へのポイント」としての役割が変わりつつあると感じている。それは、近年の計算機ネットワーク技術の発展による。特に、1991年に産声を上げたWorld Wide Web (WWW) の登場は私たちの生活に計算機ネットワークの技術を浸透させ、図書館においては、電子図書館という形で具現化しつつある。電子図書館の概念は古くて新しいものである。計算機の黎明期に既に登場していたが、最近のCommunication of ACM (米計算機学会誌) にも特集号が組まれるほど現在でも主要な研究テーマの一つである。図書館に纏わる電子的サービスという観点からすると、様々な種類のものが既に実用化されている。本

学附属図書館で扱っているものだけに限定しても、OPACやWebcat（国立情報学研究所）のように書誌情報のみを扱うものから、NACSIS-ELS（国立情報学研究所）のように安価で学会論文が参照できるもの、更には、IDEAL、SD-21といった商用論文誌（電子ジャーナル）もある。今後、電子ジャーナルを中心に、学内外のネットワーク資源を利用したサービスが図書館の目玉の一つとなっていくことであろう。

ここで、注意すべき事は、上記の例のうち、OPAC以外は本学外の組織が管理・運営を行なっている点である。その意味において、今後増加する学内外の新サービスと従来の図書サービスを如何に融合していくかが、今後の図書館の使い勝手（インターフェース）を大きく左右すると考えられる。従来の図書館のインターフェースは、均一なものであった。書籍という物理媒体を一次情報として保管し、図書カード（あるいはOPAC）や日本十進分類番号などの二次情報により検索するという枠組から出るのはなかったからだ。その意味では情報へのポインタとして分かりやすかった。一方で、電子サービスを行なう図書館においては、提供する情報に様々なものが存在し、しかも、不均一である。この状況に対応するには、幾つかの方法が考えられる。

一つ目は、利用者が積極的に情報へのポインタの構造を学ぶ事である。すなわち、図書館にどのような情報が存在し、それにアクセスするインターフェースがどのようになっているのかをできるだけ把握する。近年必要性が議論されている「情報リテラシー教育」はこの方向から解決を試みるものである。この場合でも、利用者が全てのインターフェースを均等に利用することはないと思われるので、自分の目的にあった部分を重点的に修得するのがよからう。ただし、自分の分野において、どのインターフェースの先に有用な情報があるかということは、初学者には分からない点であるから、それに対するガイダンスは別途必要になる。組織毎に細分化された情報リテラシー教育を行なうということも可能ではあるが、内容が硬直化しないようにすることが肝要である。あるいは、同じ分野の他の学生（例えば先輩）や教官がどのような本や資料を利用しているか、といった統計情報を参照できる仕組みをホームページ上におくことにより、その分野のトレンドや関連情報を容易に取得できるようにする可能性もある。

二つ目は、各種サービスの上に共通のインターフェースを被せることである。例えば、図書館司書の方々に更に拡充し、利用者に対するコンサルティングを充実する。そして利用者は司書の方々を通じて自分の欲する情報にアクセスする。利用者は気軽に探したい事柄を相談できるので非常に便利ではあるが、全学向けサービスとなると人的資源が圧倒的に不足するであろ

う。次善の策としては、人手を介さない電子的支援環境が考えられる。利用者にとって、得られる情報の不均一さよりも、アクセス手段の一貫性の無さの方が不便であることを考えると、アクセス手段の統一が有効であろう。これには、情報検索技術、特に、「メタサーチエンジン」が利用できるかもしれない。メタサーチエンジンとは複数の異なる情報検索システムに対してインタフェースの差異を吸収しつつ検索質問を発行し、各々のシステムから検索結果を同時に得る仕組みである。利用者が自分の探したい事柄を入力すると、メタサーチエンジンは、それをOPACや電子ジャーナルなど下位のサービスの入力形式に変換し、検索を代行してくれる。新しい電子ジャーナルを購読する度に対応するソフトウェアモジュールを追加する必要があるが、境目のない統一インターフェースには魅力がある。さらに、この種のメタサーチエンジンにGUI(Graphical User Interface)を組み合わせ、視覚的なインターフェースによる統合型情報ナビゲーションを実現すれば利用者の利便性は一層増すことであろう。

余談ではあるが、情報へのポインタの概念を旨く利用し高い検索精度を達成しているインターネット(WWW)情報検索サービスにGoogle(グーグル、<http://www.google.com/>)がある。WWWでは現在読んでいるページから別のページへ簡単にジャンプできるハイパーリンクと呼ばれる機能が多用される。例えば、あるページで「情報検索」という言葉が登場したとする。著者は用語「情報検索」をそのページで解説する代わりに「情報検索」を解説している別のページへの参照情報=ハイパーリンクを付加できる。ハイパーリンクは他人の書いたページに対して張ることもできるので、旨い説明が記されているページはいくつものページから情報へのポインタとして参照される。ここで参照数を(他人からの)信頼度と考え、適切な得点をつけるわけである。

閑話休題。電子化が進むと図書館建物の空間に対して、次第に書籍類が物理的に占める比重が小さくなっていくことが容易に予想される。つまり「書庫」からの転換である。しかし、物理的な空間が不要になるとは私は考えていない。冒頭に示した経験にも通ずるが、むしろ、「知的ワークスペース」としての重要性が増すのではないであろうか。ネットワークが発達したとはいえ、面と向かって話をするところこそ最も効率良く創造的な活動を行なえると考えから。学生にとって、サークル棟を除けば、自主的に仲間が集って知的作業を行なう空間というのは学内にあまりない。その意味において、現在、着々と建設作業が進められている新しい中央図書館と、そのコンセプト「人と情報の出会いを演出する多機能文化空間の創出」に期待したい。

(もり たつり 環境情報研究院助教授)

## - シリーズ 電子ジャーナル 第1回 -

### 電子ジャーナルは、誰でもすぐに使えます

#### はじめに

電子ジャーナルとは、簡単に言うと、学術雑誌を電子化したものであり、その中でも現在はインターネット経由で読めるものが主流となっています。次ページに挙げた、「本学で利用できる電子ジャーナルサービス」の中には有料のものも含まれていますが、これらの有料サービスについては、大学として料金を払って購読契約を行っているため、学内の利用者は無料で利用することができます。このシリーズでは、電子ジャーナル利用の初歩、便利な機能の使い方、学術資源としての意義等について、3回に分けて触れていく予定です。

#### 大学院生や教官だけでなく、学部生も使えます

電子ジャーナルは、大学院生や教官のような研究者だけが利用できると思い込んでいる人が多いようですが、実際には大学構成員であれば、誰でも使うことができます。学部生も研究や調査の進み具合に応じて、卒業論文や普段のレポートの参考文献として電子ジャーナルを活用すれば、より効率的に作業を進めることができるでしょうし、また内容的に豊かな成果をあげることが期待できます。

#### こんなに簡単に使えます

論文やレポートを書くには、そのテーマで過去に公表された文献を探し、それらの文献をよく読み、そのテーマに関する最新の研究内容をよく理解しておくことが重要です。それらの文献は図書（単行書）の場合もあるし、雑誌論文の場合もあるでしょう。後者の場合に有効に活用できるのが電子ジャーナルです。

#### ＜参考文献に載っている論文を入手する＞

先生や先輩から薦められた文献を読んでいると、重要そうな部分がよく簡単に書かれていて、「参考文献参照」となっていたり、他の文献から文章等が部分的に引用されていて、引用元の文献が「参考文献」として挙げられていることがあります。このような、文献の著者がその文献を書くにあたって参考にした文献（参考文献）を読むにはどうしたらよいでしょうか。その文献が掲載された資料、あるいはその文献そのものをOPACで検索してヒットすれば学内の所蔵分を利用できますし、ヒットしなかった場合も、図書館を通して学外に文献複写等を申込むことができます。しかし、そ

の文献が雑誌論文の場合、本学でその雑誌を電子ジャーナルとして購読しているのであれば、即座に論文全文を読んだり印刷したりすることが可能です。その際の手順は、次のとおりです。

1. 「横浜国立大学電子ジャーナルライブラリー」(<http://www.lib.ynu.ac.jp/ejournal>) のページを開きます。
2. 次に「電子ジャーナルタイトル一覧」の部分をクリックし、文献が掲載された雑誌が「一覧」の中にあるかどうか調べます。
3. 文献が掲載された雑誌が「一覧」の中にあるならば、そのタイトル部分をクリックして該当ジャーナルのページにアクセスし、さらに巻号やページを手掛りにして、目的の論文に辿り付きます。（但し、電子ジャーナルとして利用可能な刊年は、各電子ジャーナルサービス、或いは電子ジャーナルタイトルによって異なります。）

#### ＜研究・調査テーマに関連のある論文を検索する＞

参考文献に載っている論文Aを読んだら、次にその論文Aの参考文献に載っている論文Bを入手するということのように、芋づる式に関連文献を集めていくのも一つの方法ですが、電子ジャーナルの検索機能を使って論文に関する情報や論文そのものを収集していくこともできます。次に、電子ジャーナルの検索機能を用いた論文検索の手順を、IDEALを例にとりて簡単に示します。

1. 「横浜国立大学電子ジャーナルライブラリー」(<http://www.lib.ynu.ac.jp/ejournal>) のページを開きます。
2. IDEALの部分をクリックし、IDEALのホームページが表示されたら、ページ上部のSearchの部分をクリックします。
3. SEARCHと銘打ったページが表示されたら、検索条件の指定や検索語の入力を行います。今回は、「テレビゲームが子供に与える影響」について書かれた論文を検索することとして、検索語入力欄(Enter Search Term(s):の欄)の最初の欄に、"video game"と引用符で囲って入力し、2番目の欄にchildrenと入力し、ページ下部のSearchボタンをクリックしてみます。
4. 検索結果として、数件の論文に関する情報が示され、これらの中の幾つかはArticleの部分をクリック

リックすることで、全文を読むことができます。  
(なお、検索結果として表示された情報の中には、ノイズ(無関係な情報)が含まれる場合もありますが、検索条件の指定、検索語の選択等によって、ノイズの出現率は大きく変わってきます。)

### どしどしお使いください

電子ジャーナルは、学内の多くの利用者が簡便に利用できるものですし、また使えば使うほど対費用効果が大きくなるものです。是非、論文やレポート作成の際の文献資料の収集に活用してください。なお、今回は今回取り上げなかったScienceDirectの検索機能等についてご紹介します。

## 本学で利用できる電子ジャーナルサービス

ここに挙げた電子ジャーナルサービスは、すべて附属図書館ホームページの「電子ジャーナルライブラリー」のページ(<http://www.lib.ynu.ac.jp/ejournal>)から利用できるようになっています。

有料/無料	サービス名(又は、頒布者名)(出版社)	タイトル数	本学で利用可能なタイトル数	備 考
有料 (但し、大学として料金を払って購読契約を行っているため、学内の利用者は無料で利用することができます。)	ScienceDirect (Elsevier Science)	約1200	約800	エルゼビア・サイエンス社の電子ジャーナルサービス。分野は自然科学系、社会科学系、人文科学系と広範に及んでいる。検索機能に優れており、複雑な条件を組み合わせて緻密な検索が可能。また、利用者登録ができ、検索式を保存して、自動的に定期的な検索を行い、ヒットした論文をメールで通知してくれる機能もある。
	IDEAL (Academic Press)	約270	約270	アカデミック・プレス社の電子ジャーナルサービス。分野は、生物学、医学、経済学、工学、心理学、等。本学で冊子体を購読していないタイトルについても利用できる。
冊子体購読誌のみ無料 (本学で冊子体を購読している雑誌についてのみ、その電子ジャーナル版を無料で利用できます。)	Springer LINK (Springer)	約400	27	シュプリンガー社の電子ジャーナルサービス。分野は医学、生物学、数学、物理学、工学、科学等の自然科学が中心だが、経済学、法学にも及んでいる。
	AMS	8	6	American Mathematical Society発行のジャーナルのオンライン版。なお、本学ではAMSによる数学関係の文献データベースMathSciNet(Mathematical reviewのオンライン版)も利用できる。
	ASME	19	16	American Society of Mechanical Engineers発行の電子ジャーナル。分野は工学全般。
	RSC	28	5	Royal Society of Chemistry発行の電子ジャーナル。
	AIP、APS、等	?	24	American Institute of Physics、American Physical Society、等の学協会発行の電子ジャーナル。
	PNAS Online	1	1	自然科学系総合学術雑誌Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of Americaのオンライン版。
	Oxford Journals Online (OUP)	約190	約190	オックスフォード大学出版局の電子ジャーナルサービス。分野は、生物学、医学、歴史学、文学、法学等、広範に及んでいる。国立情報学研究所による試験提供サービスが行われているため、全タイトルを無料で利用できる。
無料	J-STAGE	53	53	科学技術振興事業団(JST)が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)日本国内の自然科学系の学協会発行のジャーナルの閲覧・検索ができる。
	HighWire Press	約140	約140	複数の出版社の電子ジャーナルを一つのプラットフォームで提供している。完全に無料のジャーナル、一定期間を過ぎると無料で利用できるジャーナル、および無料で試験利用できるジャーナルを多く集めている。但し、本契約をすることによって制約のない利用を行うこともできる。

## 退官職員の随想

### 一所懸命な20年間

遠藤 肇

昭和57年4月1日、その日は、それまで6年間お世話になった東京工業大学附属図書館から、横浜国立大学附属図書館に赴任した日でした。職員の通用口からではなく、1号館1階の入り口から入り、2階に続く階段を上って行きました。2階の正面カウンターには、文部省図書館職員養成所で同期だった鳥屋部さんと、片山さんの二人が座っていて、笑顔で出迎えてくれたことを今でもはっきりと覚えています。でもその後のことになると、不思議なことに記憶に残っていないのです。

以来、目録係を皮切りに、あっという間の20年でした。最初の目録係では、確か、私を入れて10名で、それも全部女性軍という豪華な陣容だったことも覚えています。当時は、宿直室があって、昼食は勿論、昼休みや休憩の時間には、皆が集まって歓談していました。当時の情景が懐かしくよみがえってきます。

私が赴任した当時から、現在も図書館で元気に頑張っている方は、大金さん、松下さん、岡部さん、片山さん、そして相崎さんの5人だけになってしまいました。

4年後の昭和61年には2号館が増築されました。図書館にとっても、私にとっても節目の年だったと思います。その後、社会科学系研究図書館の改修、そして今度の新館工事と、三館三様の工事も経験させていただきました。

又、悲しい出来事もありました。桜井延武さんと渡邊章夫さんの逝去です。共に将来ある若き人材で、しかも他大学の図書館からの移籍組、国大での在職期間も短く、これからという時期だっただけに、当人の心の中いかばかりかと察するに余りある二人の逝去でありました。ここに改めて、両名のご冥福をお祈りいたします。

楽しい思い出としましては、土曜日が未だ半日勤務だった頃、午後から一泊で出掛けた旅行会・忘年会などです。教育学部の真鶴にある理科教育実習施設にも出掛けました。個人的にも何をしようかと考える楽しみがありました。現在は週休二日の休日、休みは確かに増えましたが、世帯持ちの私には、“半ドン”のあの頃の方が充実していましたし、楽しい思い出も多かったように思われます。

在職20年の間、多くの方々が国大の図書館に入り、

去っていかれました。全部でどの位の数になるのでしょうか。そして、現在どうしていらっしゃるのでしょうか。ふと思う時があります。私が赴任した当時の館長、藤田忠先生、いつも笑顔の武田愛子さん、そして、つい先頃、突然逝かれた杉尾部長……どうしても話が去りし人達、とりわけ、お亡くなりになった方々に向って行くようです。これも仕方のないことと思います。そういったたくさんの人達に支えられて、今日の図書館があるのですし、現在の自分もあるのだとつくづく思います。

赴任してしばらくの間、昼休みは、昼食もそこそこにして、グラウンドで、来る日も来る日も、夢中になって、ソフトボールの練習試合をやっていました。その頃は、まあまあ強いチームだった（と？）自負していました。でも、毎年夏に開かれる学内の大会では、一度も勝利した覚えがありません。今では懐かしい思い出の一つです。もっと沢山の思い出がありますが、この位にしておきましょう。この20年、一言と云えば、横浜国立大学図書館のみならず、全学を動き回った、と云える20年でした。

現在いらっしゃる皆様には本当にお世話になりました。というよりは、ご迷惑をおかけしましたといった方が適切でしょうか。新館の完成を中端にして去ることになりました。このことに関しましては、特にコメントはいたしません。

最後になりますが、皆様には、ソフトボールではありませんが、チームプレーが大切だと思います。私は”一所懸命”という言葉が好きです。組織の中で、お互いがチームプレーに徹しながら、お一人お一人が、一所懸命という個性を発揮されんことを。

昨今、国立大学を取り巻く環境が厳しさを増す中で、横浜国立大学附属図書館の更なる発展と、館員皆様のご健康、ご多幸、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。（えんどう はじめ

附属図書館情報サービス課資料サービス係長）

### 思い出すままに…

松下 敬子

”集まり散じて人はかわれど……” 我が母校ならぬ好敵手、早稲田大学校歌の一節である。歓送迎会のたびに、いつもこの歌詞が胸を過ぎった。

当たり前の事だけれど、この図書館に就職した時に居られた方々は少しづつ、いつの間にか？いなくな

り、気がついてみれば取り残されていた？いよいよ自分の番となって、懐かしい方々の顔、昔日の様々なシーンが目に浮かぶ。過ぎてみれば ”一炊の夢”のごとく儚いが、じっくり振り返ってみると、実に多くの事柄を含んだ年月であった。多くの人々との出会いは日本全国だけでなく、世界にも広がり、人を通して、仕事を通して多くの事を学んだ。

”その湯飲みにそっくりの人のところに、持ってゆけば良いのよ。”… 初めのお茶くみで先輩に言われた言葉である。そのときは良く解らなかったが、なるほど本当に持ち物も字体も、なぜかその人に似てくるから不思議である。当時は朝、昼、3時と湯飲みを洗い(帰宅時も)、お茶を入れ、うやうやしくお届けするのが普通であり、夏は麦茶、レモネードなどを作り冷やしておくのが、女性だけの当番の務めであった。会議、お客様接待なども加わり、時には1日中お茶くみをする事が仕事かと錯覚する時さえあった。又、ある時は事務長が、ご自分でつかれ持ってこられた栗餅でお汁粉を作るべく、目録をとる机のかたわらの、ガスストーブで全員のために1日中お餅を焼いたこともある。事務長は栗餅、スイカ、甘茶の木などをよく小さな体に背負って清水ヶ丘の坂を上ってこられた。

”針を1本落としても部屋中に響く”… 当時、図書館の事務室は、時折洋書の目録をとるタイプライターの音がするだけの静けさで、学部事務室の人々から言われていた言葉である。皆、黙々と仕事をこなし、事務長も全ての仕事に気を配り、一緒になって仕事をした。仕事には非常に厳しく、時には大きな雷が落ちたが、その後はニコニコと可愛げで部下の面倒も良くみてくれた。アルバイトの就職の世話から、具合が悪くなった職員の送り届けまで、又、牡丹が咲いたから等、度々自宅に職員を誘い、ご馳走をふるまってくれた。先輩も後輩にやさしく、後輩も従順であった。

”図書館でどんな仕事をしたいですか。”… 面接時に問われた言葉である。当時花形であった参考業務に私も憧れており、「参考業務は図書館の全ての仕事に熟達し、しかも人柄も、人間の出来も良くなくては適任者ではない。」と”教科書”に書いてあった(それほどの器量を備えていたら、図書館職員などならないと学生時代笑っていた)にもかかわらず、臆面もなく「参考業務です。」と答えてしまった。当時参考係は存在していなかったが、就職5年目、新設された参考係に配属された時は、不安もあったが嬉しかった。

それから10年あまり、その間、清水ヶ丘から常盤台への移転もあったが、参考業務に専念した。毎日が大変楽しく、利用者のための調査が、過程も結果も自分

の血となり肉となる事に感激し、私は何と良い仕事に恵まれているのだろうと幸福感を味わっていた。

当時の学長をはじめ、内外の多くの方に名前を記憶され、お菓子やお酒の差し入れまで頂いた。何人かの教官には、その著書の前書き、後書にお礼の言葉を掲載し、お送り頂いた。その後、退官し亡くなるまで、著書をお送り続けてくださり、折にふれて連絡をくださったたり、お会いした教官もいる。

一番恵まれ、充実した時代だった。

”長研55”… 昭和55年文部省等主催の長期研修に参加した。その同窓会名である。およそ1月間全国から集まった方々と時には泊まり込み、時には通つての研修で、これも又私にとっては勉強になると同時に楽しいものであった。終了後はお互いに連絡を取り合う事で、仕事もスムーズに運ぶようになり、Human Networkのすばらしさを感じた。参加するにあたって、研修はともかく、Human Network を結んでくるよう課長に示唆されたのも、うなずける。それから21年、毎年全国のどこかで、同窓会を開いてきた。その合間にはミニミニ同窓会もあり、おかげで、北海道から九州まで、様々の土地を知る事となり「同じ釜の飯を食った」仲間は家族状態？ですばらしい関係となった。

”海外出張”… 平成10年学長裁量経費で英国に出張した。図書館にとって、創設以来2人目の海外出張である。念願の出張であったが、1人であったため、経費は出るものの、出張先への訪問取り付け、研修内容の交渉、飛行機、ホテル、日程等、メール、FAX、手紙での準備作業を全部自分でこなさなければならず、時間差もあり、休日出勤もしていた多忙時の中で、大変な激務であった。が、Cambridge Univ.、Oxford Univ.、British Lib. 訪問は日本では得られない多くの事柄を勉強させてくれた。同時に、緑多い広大な風景、年代を感じさせる重厚な建物、控えめながら温かで礼儀正しい人々にふれて、それ迄積もっていたストレスが一気に発散され、気分も一新して私は英国が大好きになった。それまで、訪れたことのあるスイスでもドイツでもベルギーでもオランダでもハワイでもそんな気分にはならなかった。

”皆様有り難うございました。”… 振り返ってみると、実に多くの方々にささえられて、今日まで来られた事を痛感した。

館長をはじめ、教職員、他大学・機関の方々、本当に有り難うございました。新図書館竣工前の退職は残念ですが、平成15年の春を楽しみにしております。

(まつした けいこ)

附属図書館情報サービス課相互協力係長)

## 教官寄贈図書リスト

平成13年12月末までに本学教官の方々から寄贈していただきました著書・編書を紹介します。ご恵贈ありがとうございました。リスト上の配列は寄贈者の五十音順で、所属部局は原則として最新のものです。

- 天川 晃** (国際社会科学研究所) 共立出版 1999  
 ”The occupation of Japan 1945-52” 天川晃ほか著  
 Suntory Toyota International Center for  
 Economics and Related Disciplines 1991  
 『地域から見直す占領改革』天川晃ほか著  
 山川出版社 2001
- 泉 宏之** (経営学部) 電通 2000  
 『簿記テキスト』大藪俊哉編著  
 中央経済社 2000
- 犬塚 文雄** (教育人間科学部) 岩波書店 2000  
 『教育カウンセリング』犬塚文雄著 福音社 2000
- 太田 時男** (工・名誉教授) 信山社 2001  
 ”Energy systems” 太田時男著  
 Elsevier Science 2000
- 大原 一興** (工学研究院) 有信堂高文社 2001  
 『環境学習のための施設の建築計画に関する研究』  
 大原一興 (研究代表者)  
 横浜国立大学工学部建築計画研究室 2000
- 大矢 勝** (教育人間科学部) キネマ倶楽部 2001  
 『合成洗剤と環境問題』大矢勝著  
 大学教育出版 2000  
 『合成洗剤は本当に有害なのか?』大矢勝著  
 オーエス出版社 2000  
 『石けん・洗剤100の知識』大矢勝著  
 東京書籍 2001
- 金子佳代子** (教育人間科学部) Yamagata International Documentary Film  
 『ドクターマッスルのスポーツ栄養学』  
 横浜国立大学教育人間科学部食品栄養学研究室  
 2000  
 Festival 1993
- 河野 正男** (国際社会科学研究所) 養賢堂 2000  
 『環境会計』河野正男著  
 中央経済社 2001
- 熊代 幸伸** (工学研究院) ”Hydrodynamics IV” 鈴木和夫ほか編著  
 ”Electric refractory materials” 熊代幸伸著  
 Marcel Dekker 2000  
 Rotterdam 1996
- 高 致華** (客員研究員) Elsevier 2000  
 『台湾文化鬼跡』高致華著  
 高致華 2001
- 國分 泰雄** (工学研究院) 隅田 一豊 (経営学部)  
 『光波光学』國分泰雄著  
 横浜国立大学 2001
- 木暮 啓** (教育人間科学部・非常勤講師) 岩波書店 2000  
 『情報社会と次世代ライフスタイル』横浜国立大学  
 『情報と人間』プロジェクト編著  
 電通 2000
- 斎藤 純一** (経済学部) 信山社 2001  
 『公共性』斎藤純一著  
 岩波書店 2000  
 『目的地は国立公園』加藤峰夫著  
 信山社 2001  
 『社会開発論』佐藤誠編、山崎圭一ほか著  
 有信堂高文社 2001
- 佐野 正之** (教育人間科学部) 大修館書店 2000  
 『アクション・リサーチのすすめ』佐野正之編著  
 大修館書店 2000
- Gerow, Aaron Andrew** (留学生センター) 2001  
 『In praise of film studies』Gerow, Aaron Andrew  
 ほか著  
 キネマ倶楽部 2001  
 ”Writing a pure cinema” Gerow, Aaron Andrew著  
 1999  
 『Japanese documentaries of the 1960s』Gerow,  
 Aaron Andrew ほか編  
 Yamagata International Documentary Film  
 Festival 1993
- 清水久二・福田隆文** (工学研究院) 養賢堂 2000  
 『機械安全工学』清水久二・福田隆文編著  
 養賢堂 2000
- 鈴木 和夫** (工学研究院) 隅田 一豊 (経営学部)  
 ”Proceeding of the 14th International Ship and  
 Offshore Structures Congress Vol. 1, 2” 角洋  
 一ほか編著  
 Elsevier 2000

- 『自治体行財政改革のための公会計入門』隅田一豊著  
ぎょうせい 2001
- 関口 欣也 (工・名誉教授)  
『建築史の空間』関口欣也先生退官記念論文集刊行会編  
中央公論美術出版 1999
- 高木まさき (教育人間科学部)  
『「他者」を発見する国語の授業』高木まさき著  
大修館書店 2001
- 高橋富士信 (工学研究院・客員教授)  
"Very long baseball interferometer" 高橋富士信  
Ohmsha 2000
- 高見沢 実 (工学研究院)  
『初学者のための都市工学入門』高見沢実著  
鹿島出版会 2000
- 田中 裕久 (工学研究院)  
『トロダイルCVT』田中裕久著  
コロナ社 2000
- 坪井 孝夫 (工学研究院)  
『熱幅射型ダイオキシン破壊システムの開発』坪井孝夫 (総括代表者)  
横浜国立大学大学院 2001
- 友成 忠雄 (工・名誉教授)  
『チタニウム工業とその展望』友成忠雄編著  
友成忠雄 2001
- 中村 文彦 (環境情報研究院)  
『バスはよみがえる』中村文彦ほか編  
日本評論社 2000  
『I・T・S Part2 Intelligent transport systemsとこれからのバス・タクシー』中村文彦ほか編  
地域科学研究会 2001
- 野垣 義行 (教育人間科学部)  
『教育論文集－伊東博教授定年退官記念』  
横浜国立大学教育学部伊東教授退官記念会  
1984
- 朴 世学 (経済学部)  
『ガット19条と国際通商法の機能』柳赫秀著  
東京大学出版会 1994  
『産業経済法』來生新著  
ぎょうせい 1996  
『構造変化と企業行動』倉沢資成・若杉隆平編著  
日本評論社 1995  
『現代の経済政策』田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編  
有斐閣 1996
- 馬場 謙一 (教育人間科学部)  
『精神臨床と精神療法』馬場謙一著  
弘文堂 2000
- 原田 洋 (教育人間科学部)  
『マツとシイ』原田洋ほか著  
岩波書店 2000
- 府川源一郎 (教育人間科学部)  
『「ごんぎつね」をめぐる謎』府川源一郎著  
教育出版 2000  
『自分のことばをつくり出す国語教育』府川源一郎著  
東洋館出版 2001
- 堀内かおる (教育人間科学部)  
『教科と教師のジェンダー文化』堀内かおる著  
ドメス出版 2001
- 三宅 晶子 (教育人間科学部)  
『歌舞能の確立と展開』三宅晶子著  
ぺりかん社 2001
- 村田 忠禧 (教育人間科学部)  
『毛沢東伝・下』村田忠禧著  
みすず書房 2000
- 村林 眞行 (環境情報研究院)  
『グリーン・ケミストリー』村林眞行ほか著  
三共出版 2001
- 山田 弘康 (工・名誉教授)  
『建築・都市・環境空間をdesignする』山田弘康著  
山田弘康先生退官記念会 2001
- 吉田 鋼市 (工学研究院)  
『重要文化財横浜市開港記念会館保存修理工事報告書』文化財建造物保存技術協会編  
横浜市教育委員会生涯学習部文化財課 2001
- 吉田 昌平 (留学生センター)  
"Phonological government in Japanese" 吉田昌平著  
Australian National University 1996
- 吉原 健一 (工・名誉教授)  
"Censorship under weak dependence" 吉原健一著  
三省堂 2000
- 吉村 忠典 (教・名誉教授)  
『支配の天才ローマ人』吉村忠典著  
三省堂 1981
- 吉森 賢 (経営学部)  
『コーポレート・ダイナミックス』稲葉元吉著  
白桃書房 2000



## 平成12年度購入主要コレクション等

1. **BOOK TV大学 書物5000年**. VHS 全13巻  
CS放送のための50分番組シリーズが資料化されたもの。第1巻「グーテンベルク42行聖書」から第13巻「書物の行方」まで。  
[中央館1号館1階AV室-V 020.2||SY]
2. **Cambridge Texts in the History of Political Thought**.  
西洋思想史における名著を集めたケンブリッジ大学出版局発行の叢書コレクション。  
[中央館2号館1階書庫 311||CA]
3. **Revue de Science Criminelle et de Droit Pénal Comparé**. Vols. 1-6 (année 1936-1941); vols. 7-42 (nouvelle série : 1946-1981)  
フランスの代表的な刑事法雑誌のバックナンバー。最新の巻号については経済学部附属貿易文献資料センターで継続購入中。  
[社会系図雑誌フロア]
4. **Fiscal Studies**. Vols. 1-20 (1979-1999)  
「財政学研究」。イギリスの財政学研究所によって編集・発行されている学術雑誌のバックナンバー。

- [中央館1号館3階雑誌開架]
5. **Hispanic American Historical Review**. Vols. 1-79 (1918-1999)  
スペイン系アメリカ人社会に関する学術雑誌のバックナンバー。  
[中央館1号館3階雑誌開架]
  6. **Garden Design, 16th-19th Century**.  
1セット152タイトル (マイクロフィッシュ1,443枚)  
ドイツのハノーファー工業大学図書館所蔵「ハウプトコレクション」の中から選ばれた庭園設計・造園・園芸学・庭園史などに関する文献100タイトルおよび補完する形で集められた関連文献52タイトルが、マイクロフィッシュで刊行されたもの。  
[中央館1号館1階特殊資料室 629.5||GA]
- [ ] は資料配架場所・請求記号。平成14年度の中央図書館は新営・改修のため閉館になりますので、配架場所・利用条件等には変更があります。個々の資料の利用についてはサービス窓口でご確認ください。



### 図書館に関する会議

(平成13年7月1日～10月31日)

#### 運営委員会

平成13年度第2回 (7月13日)

<審議事項>

- 1) 中央図書館増築・改修工事に伴う休館について
- 2) 平成12年度附属図書館決算について
- 3) 平成13年度附属図書館予算について
- 4) 平成14年度の電子ジャーナルサービスについて

平成13年度第3回 (9月21日)

<審議事項>

- 1) 附属図書館における情報リテラシー教育のあり方について

#### 図書館資料選定小委員会

平成13年度第2回 (10月19日)

<審議事項>

- 1) 平成13年度研究図書収書計画の策定について
- 2) 平成13年度古典・叢書類収書計画の策定について

#### 附属図書館における情報リテラシー教育のあり方に関するワーキング・グループ会議

平成13年度第2回 (7月6日)

<議事>

- 1) 平成12年度総合領域「知の回廊」の評価について
- 2) 附属図書館における情報リテラシー教育のあり方について

平成13年度第3回 (7月27日)

<議事>

- 1) 平成12年度総合領域「知の回廊」の評価について
- 2) 附属図書館における情報リテラシー教育のあり方について

## 主要日誌

(平成13年7月1日～10月31日)

- 7.4 神奈川県図書館協会大学図書館委員会 (東海大学)
- 7.11 神奈川県図書館協会広報委員会 (神奈川県立図書館)
- 7.19 神奈川県内大学図書館相互協力協議会 (専修大学)
- 7.20-22 オープンキャンパス2001
- 7.26 日本図書館協会大学図書館部会 (一橋大学)
- 8.8 日本イデアル・オープン・ユースシウム (JIOC) (埼玉大学ステーションカレッジ)
- 8.9 国立大学図書館協議会電子ジャーナルユーザー教育担当者研修会 (千葉大学)
- 8.31 中央図書館新営・改修工事安全祈願祭
- 9.7 神奈川図書館協会広報委員会 (神奈川県立図書館)
- 9.13-14 第18回大学図書館研究集会 (一橋大学)
- 9.18 平成13年度新CAT/ILLシステム説明会及び学術雑誌総合目録欧文編データ更新説明会 (国立情報学研究所)
- 9.20 関東地区国立大学附属図書館職員研修会 (総合研究大学院大学)
- 10.19 神奈川県図書館協会理事会 (神奈川県立図書館)

## 職員の動向

(平成13年7月1日～10月31日)

### 転入

(10月1日付)

情報サービス課参考調査係  
(新採用)

佐川達子

### 転出

(10月1日付)

経理部契約室契約第二係  
(情報サービス課参考調査係)

東 慎 滋

## 中央図書館の新営・改修工事に伴い、サービスの変更(予定)があります

### ◇3月に臨時休館を行います

休館する図書館：中央図書館、理工学系研究図書館  
社会科学系研究図書館

休館日程：3月1日(金)～3月31日(日)

また、4月1日(月)～4月4日(木)は書架点検整理のため、休館日となりますので、あわせてご承知おさください。

### ◇4月より1年間(予定)、中央図書館が利用できなくなります。

平成14年4月から1年間(予定)、中央図書館を閉鎖します。この間、中央図書館1号館の資料は理工学系研究図書館と社会科学系研究図書館等に分散配置することとし、平成14年度の図書館サービスはこれらの研究図書館等で行います。

以上2点、利用者の皆さんにはご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願ひします。

## 平成14年度の情報リテラシー教育支援(予定)について

附属図書館では、平成14年度に下記のような図書館利用ガイダンスを開催して、情報リテラシー教育支援を実施する予定です。

記

### 定期講習会

資料検索入門、論文検索ガイダンス、参考図書の使用ガイド、電子ジャーナル利用案内等のプログラムで、決められた日時に館内で行います。

### 出張講習会

先生方のご希望に沿ったプログラム内容で、職員が研究室や教室に出張して行います。

詳細については、次号でお知らせする予定です。